

【坂東市】 校務DX計画

【現状】

坂東市では、令和2年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一扫が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

坂東市では、「Microsoft365」等のクラウドツールを活用した学習等が少しずつ進んでいる。校務としては学校内の会議で使用する書類の印刷・配布、生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等についてもクラウドが利用されている。職員会議等でも資料をWeb会議ツールのクラウド上で共有し、ペーパーレス化が進んでいる。

しかし、職員会議のハイブリッド化などは限定的であり、市全体での推進には至っていない状況である。

また、物理サーバによる運用を行っているため、教職員は学校内での業務が必要となっており、在宅での勤務はできない状況である。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

坂東市ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、一部でFAXでのやり取りが慣行として行われている状況である。

事務手続きでもクラウド化されておらず、書類での提出となっているものがある。また、責任者による押印等が必要であり、業務負担の増加となっている。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一扫

坂東市では、校務系と学習系のネットワーク分離をしているが、教職員の端末は1台に集約している。校務系と学習系は共有の学校フォルダを使用することでデータの移行が可能で、USBを使用したりせずにデータ移行ができるためセキュリティを確保したうえで業務負担を軽減することができている。

また、生徒の欠席・遅刻等に関して保護者から電話や校務支援ソフトと連携していないソフトで受け付けており、教職員が別途校務システムへ入力し、管理者へ報告をしている状況であり、教職員の大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から坂東市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

職員会議は用いるWeb会議ツール利用することを更に推奨し、印刷等の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。また、クラウドを活用した職員会議のハイブリッド化、サーバ運用の見直し等を行い、教職員のロケーションフリーな校務実現を検討していく。

(2) FAXでのやり取りの見直し

市教育委員会－学校間、学校－学校間の連絡については、校務支援システムのグループウェア機能の使用を徹底。また、外部との連絡についても学校代表メールアドレスや茨城県より付与されている個人メールアドレスにより、メールでの連絡を徹底し、FAXでのやり取りを原則廃止に向けて推進していく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

現在、坂東市で導入している校務支援システムは令和9年度中までの運用となっている。令和9年度以降については、現在、茨城県が進めている校務支援システムの共同調達に参加しクラウド環境での導入に向けて検討していきたい。